



### 地球っ子広場・ピースらんど（岩手県一関市）

「石と賢治のミュージアム」の多大なるご協力を得て、一関市の生涯学習活動「学びの土曜塾」の一つとして組み込んでいただき、2か月に1度開催しています。また、保護者やご年配の方も一緒に参加していただき、世代を超えた場になっています。宮沢賢治ゆかりの地であり、賢治の「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という考えと地球っ子広場の精神が同じであると考え活動しています。自然遊び、エコ活動、創作活動などをバランスより取り入れています。

自然遊びでは、会場の側にはきれいなサワガニが生息できる条件の整ったきれいな沢があり、サワガニ捕りとスケッチも楽しみ、最後はカニを元の沢に戻してやりました。

創作活動では、手作りの凧あげ、お雛様づくり、プラバンのアクセサリー作りなどを行い、どれも地域で活躍される講師の方が本格的な指導をしてくださいました。



## 地球っ子広場・仙台（宮城県仙台市）

毎回、ボランティアのスタッフが順番に講師を務め、ものづくりをはじめ、季節に配慮しながらプログラムを企画しています。

特に力を入れているプログラムが、自分の周りで起こったポジティブなことや嬉しかったことなどを発表し、仲間たちと共有する「マイニュース」の時間です。日常の小さな幸せや喜びに目を向け感謝の心が育まれ、仲間の話を聴くことで共感力も高まり、自尊心と多様性を受け入れる心が育まれています。長年続けてきた成果で、自分の気持ちを物怖じせず、完結に伝えることができるようになっていきます。

29年度は久々に、日本の文化と思いやりの心を育むことを目的に茶道を行いました。講師の渡邊洋子先生の「今はわからなくとも、将来必ず子どもたちのためになることです。本物を、しっかり見て体験してほしい」とのお気持ちから、本式の茶室、そしてお道具に触れさせていただくことができました。「いつもお姉ちゃんから悪口を言われてケンカになっているけど、今日はお茶の部屋全体がやさしさでいっぱい、先生のやさしさも最高だったので、帰りにお姉ちゃんに悪口を言われたけど、全然気にならなかったし腹も立たなかった。心が清らかになった。お茶もお菓子も美味しかった。おもてなしの心が響いていた。」といった感想をもらい、本物の体験を通して、子どもたちにその真髄が伝わったと思います。

また、写真たてづくりや鍵編みのコースターづくりを通して、根気の必要な作業をやり遂げたり、室内で可能な体を動かす遊びなども取り入れました。



### 地球っ子広場・五井（千葉県市原市）

自由遊びを中心に、子どもも大人も、心を開いてゆるやかに集まれる場になり、読み聞かせ、皆でできる体を使ったゲーム、自由遊びを中心に、子どもたちのやってみたいことを大切にしながら活動をしています。

また、高校生、大学生、社会人になった地球っ子広場の卒業生がボランティアに来てくれるようになり、県立市原高校の生徒も「ユネスコ協会ESDパスポート」事業の一環で、定期的にボランティアとして参加してくれています。若いボランティアの存在は、エネルギーあふれる子どもたちへの対応に大変大きな役割を果たしています。

また、初めての試みとして、養老渓谷へのハイキングにもチャレンジしました。このハイキングにも地球っ子広場の卒業生が引率をしてくれました。

地球っ子広場の卒業生の中には、まだ教室に来はじめた頃、自己中心的な問題を抱えた子どもだったのですが、通っているうちに自己肯定感と利他的な心が育まれ、今では、子どもたちのために地域の一員として協力をしてくれる人財に成長しました。この姿が、今来ている地球っ子たちにもよい影響として伝わっています。



### 地球っ子広場・いすみ（千葉県いすみ市）

地元の古民家で開催をしています。コーディネーター（広場の代表）のお孫さんとその友人や、親子での参加が中心です。

自然の中で、子どもたちがのびのびと過ごし、遊びを通して、世代を超えた交流を大切にしています。

### 地球っ子広場・船橋（千葉県船橋市）

コーディネーターが主宰しているテコンドー教室の特別プログラムとして、地球っ子広場の時間を設けています。昨今、子どもたちの運動能力の低下が問題視されていますが、テコンドーの体験をはじめ、体を使った遊びをメインプログラムとして、安全な場で楽しく体を動かす機会を提供しています。また、韓国、中国にルーツを持つ子どもたちが集まる場です。

毎年9月21日は「国際平和デー」。今、世界は1日たりとも戦争や紛争がない日はないと言われています。そんな中、たった1日だけでも、武器を置き、敵対行為を停止することを呼びかけている国際デーです。船橋教室でも、毎年、この日を記念するプログラムに取り組んでいます。

平和の大切さを伝えるには色々な方法がありますが、自国の文化と出会い直すこともその一つと考えています。韓国の文化を楽しみながら知ることができるように、伝統的な子どもの遊びであるトゥホに挑戦しました。

トゥホとは、一定の距離から壺に向かって決まった数の棒を投げ、何本入ったかを競う遊びです。今回は、難易度によって点数の違う壺を用意し、予め配っておいた3本の棒を投げて得点を競い合います。シンプルな遊びですが、幼児から大人までが一体となり大盛況。「また、やりたい！」「棒を投げてなかなか入らなかったけれど、入ったときはうれしかった！」などの声が聞こえ、中学生も楽しんでくれました。



### 地球っ子広場・自由が丘（東京都目黒区、大田区）

2/15（日）、大田区立おなづか小学校で開催された、大田区が主催するエコフェスタワンダーランドに、自由が丘教室がブース出展をしました。

エコフェスタワンダーランドは、大田区内の小学校を巡回して年に一度開催される、環境をテーマとしたイベントで、主に環境活動を行っている団体がブース出展をして協力し、地球っ子広場は13回目の参加になりました。

地球っ子広場・自由が丘のブースでは、エコ工作を提供し、牛乳パックをデコレーションするハッピーボックスと、新聞紙のコサージュづくりを行い、子どもと大人を合わせると100人を超える参加者で大盛況でした。

幅広い年齢の子どもたちが参加して、まだ工作の作業が難しい年齢の小さな子どもも受け入れ、多くの子ども「やってみたい」気持ちを大切に、成功体験を積んでもらえる機会になりました。



## 地球っ子広場・さむかわ（神奈川県高座郡寒川町）

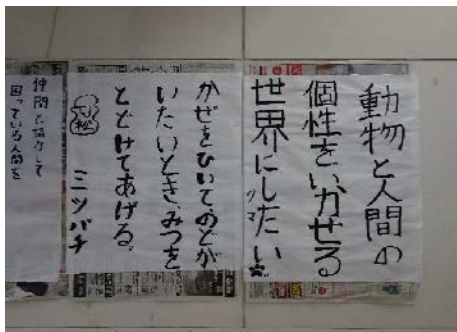
29年度のさむかわ教室は、教室の新規募集チラシづくりから始まりました。自分たちの広場の活動を伝えることで、より子どもたちが主体的に場づくりに関わることからスタートできました。

そして、昨年に引き続き、今年も年間を通して、主に演劇に取り組みました。夏から準備がスタートして、セリフづくりや劇の練習以外にも、途中で造形を取り入れて、自分の役のキャラクターを紙粘土で作ってみたい、書初めでは、自分の役のセリフを書くことなどを取り入れ、役作りを行う工夫をしました。その結果、子どもたち一人一人は、自分の役を自分事として、ちゃんと捉えて取り組むことができました。

劇の題名は、「多くの生命とひとつの願い」。ストーリーは、動物、昆虫、植物たちが、山に住む女神様に皆で協力し合いながら会いに行き、願いを叶えてもらいます。その願いというのが、それぞれの立場でみんなのためにどういうふうに役に立ちたいかという内容で、例えば熊なら「動物と人間の個性をいかせる世界にしたい」。ミツバチなら「かぜをひいてのどがいたいとき、みつをとどけてあげたい」。花なら「きれいなお花をさかせてみんなをえがおにしたい」。かまきりなら「ぼくのかまを使って人間のお手伝いをしたい」などで、最後は、みんなのひとつの願いは「平和！」で、その夢を叶えてもらい、幸せの国に行けるというストーリーです。

ストーリーのベースは地球っ子広場のスタッフが作りましたが、内容を深めて、セリフづくりなどの作業は、子どもたちがメインで行っていきました。

子どもたち自らが、地球っ子広場で学んだことを表現し発信することができるようになってきていることは、大きな喜びです。



### 地球っ子広場・新潟（新潟県新潟市）

日本文化の理解と国際感覚を養うことをテーマにしています。地元の外部講師の方々の協力を得ながら、茶道、華道、革細工、英語をベースに活動しました。講師の方そして、保護者の方のご協力を得て開催しています。子どもの個性を生かしながらも、本格的なご指導をしていただきました。

### 地球っ子広場・富士SUN山（山梨県）

東京と山梨を拠点に、主に自然体験を中心とした活動を行っています。

東京の場合は、色々な公園に出かけ、ゴミ拾いをしながらの散策や、アスレチックなど体を動かすことを行っています。少し足を延ばし、秩父や奥多摩などへハイキングに行くこともあります。

また、山梨での活動は登山やキャンプ、アウトドアクッキングなどに取り組んでいます。特に、夏の蛭ヶ岳と四尾連湖でのキャンプでは、28年度は天候の事情で予定が大きく変更になりできなかったことが多かったのですが、29年度は天候に恵まれ、野外のバーベキュー、テントでの宿泊などを体験することができました。魚釣り、水泳、ボートで、遊び疲れ、テントではぐっすり眠ることができました。

野外クッキングでは、太陽熱を利用するソーラークッカー「エコ作」を使って、野菜料理にチャレンジしました。「エコ作」は災害時には有用で、自然体験と防災教育はつながっているので、3.11の前に貴重な体験となりました。また、味噌汁をはじめとする味噌料理には、地球っ子広場で作っている味噌を活用するなどしました。

冬には、スキー体験を行うなど、季節に合わせた自然体験をできるように工夫をしています。





### 地球っ子広場・きょう（京都府宇治市）

年間を通して、学校や家庭では体験できないことや挑戦ができる場を心がけ、情操教育に力を入れていきます。様々な分野からバランスよく体験活動を組み入れています。

音楽活動、里山での自然体験、プロから教わるものづくり、芸術鑑賞、ダブルダッチなどをメインに活動を行っています。

音楽活動では、大正琴、ハンドベル、キーボード、ピアノ、グロッケン、トーンチャイムなど様々な楽器を用いた合奏にチャレンジしました。12月には、高齢者施設のクリスマス音楽会ボランティアとして演奏をさせていただくことができました。利用者さんの皆さんは毎年楽しみにしてくれています。手とつないで歌ったりすることで場も和み、また、また次の年も頑張りたいという、子どもたちの励みにもなっています。

里山での自然体験では、ピオトーブネットワーク京都様のご協力で、様々な自然体験活動をさせていただきました。オリエンテーリングをはじめ、自然素材のおもちゃづくり、サツマイモの植え付け、ジャガイモ、玉ねぎ、ピーマン、レタスなどの収穫とそれらを使ったカレー作り、棒パンづくりなどの野外料理などの体験をすることができました。自然に慣れてくると、自分たちでも遊びを考えて過ごすことができるようになりました。

プロから教わるものづくりでは、地域の様々な分野のプロフェッショナルの方のご協力をいただき、パティシエから教わるお菓子づくり、木工工作、パン作りなどを企画し、大変好評を得ています。

また、ソプラノ歌手の方、腹話術の公演、音楽の演奏と絵本の読み聞かせなど、本物の芸術に触れる機会も大切にしています。

スポーツのプログラムとしては、集中力・表現力・リズム感・協調性・社交性・自尊心・バランス感覚・持続力・コミュニケーション能力を育てるために、ダブルダッチ（2本の長縄を使い、音楽に合わせてたりしながら大縄のように回し跳ぶ競技）に挑戦しています。



### 地球っ子広場・タカラツカ（兵庫県宝塚市）

宝塚市内の桜台小学校と長尾台小学校両校で、月2回ずつ開催しました。地域の大学生から熟年世代の方々まで幅広い世代の方々のご協力いただき、プログラムの講師を務めてくださるなど、世代を超えた交流・コミュニケーションをとる良い機会となっています。世界の文化を学んだり、科学遊び、昔遊び、囲碁、バルーンアートなど、普段、学校や家では体験できないプログラムや遊びの時間を多く設けました。

### 地球っ子広場・甲陽園（兵庫県西宮市）

25年度より西宮市青年愛護協議会の活動の一つになりました。月2回開催されるプレーパークでのサポートと、「科学体験・水ロケット」「本格的な革小物作り」「ペンシルバルーン」「夏祭り」などの大きなイベントを開催し、毎回定員を超える応募があり大変な好評を得ています。

地球っ子広場を卒業し、高校生や大学生になった子どもたちが、夏祭りなどの地域のイベントの際には、顔を見せてくれたり、スタッフとして手伝ってくれるようになってきました。そのようなことから、地域をつなぐ役割を果たしていると実感しています。

## 地球っ子広場・

### ラボラトリーオ・ディ・パーチェ スパーツィオ・ペル・イ・バンピーニ・スツラ・テッラ（イタリア）

イタリアを中心にポーランド（ワルシャワ）にも移動し、地球っ子広場を開催しています。イタリアでは10回、ポーランドでは2回行いました。

マチェラータ（イタリア）の柔道クラブ、トスカーナ（イタリア）の小学校、そしてワルシャワ（ポーランド）の日本文化センターと小学校では、子どもたちと「平和とは何か？ どのような時に平和な気持ちになるか？」や、「言葉にはエネルギーがあり、私たちの心を喜ばせるステキな言葉や明るい言葉は何か？」言葉の与える影響力について考え、お互いを喜ばせる言葉探しをしました。

続いて、日本文化の折り紙や書道を行いました。折り紙はこの国に行ってもとても喜ばれ、一枚の紙から手先を細かく動かして脳を刺激する、集中力を付ける、折る順番を覚えて記憶力を高める、創作の喜びを味わうなど、たくさんの利点があります。羽が動く鶴や色が美しい駒などの作品を前に子どもたちは歓声を上げて喜び笑顔になります。

また、書道では、書道、華道、柔道、茶道などの「道」についてや、感じの成り立ちなどを説明してから、好きな言葉を選んで体験してもらいました。

フェルモ（イタリア）の音楽協会では、3歳から5歳児を対象に、5日間連続で、コーディネーター（教室の代表）が以前教えていた、鈴木メソッドの音楽教育を活用して、「平和と調和」をテーマにした音楽プログラムを行いました。

日用品（プラスチック食器、箸など）を使った打楽器を用いて、保護者も一緒にエクササイズを行いながら、共調性を伸ばし、互いを尊重する心を育てることを目的にしました。

音や沈黙（休符や何かを始める前の静けさ、終わったあとの余韻）を注意して聴くことで集中力を養ったり、仲間のお話を聴く力を育んだり、歌やリズムを真似して覚えることで、記憶力も養ったり、合奏や合唱の指揮をすることで、みんなの前に立つ勇気を出させ、リーダーとしての体験をさせました。

マチェラータ（イタリア）の小学校では、2016年に発生したイタリア中部大地震からちょうど1年が経った2017年10月30日に、3つの小学校を訪れ、約220名の子どもたちに、東日本大震災で被災した地球っ子広場・奥州（岩手）の子どもたちからの友好と励ましのメッセージや絵などを届けました。

その中のひとつ、菅野りんさんからの手紙では、自らの大震災の経験に触れ、「私が震災で学んだことは、どんなに大変な時でも、人は笑っていられるということです。そして、私たちが微笑むと、まわりの人たちも微笑みを返してくれます。そうすると、みんなが微笑むのを見て、自分も、もっと元気が出て明るくなります。スマイルは魔法と同じです。嘘ではありません。どうか、みんなも、どんな時でも微笑みを忘れないでください」という言葉が贈られ、また、その他のメッセージや絵を紹介すると、どの子も真剣に耳を傾け、遠く日本の子供たちが、自分たちのことを想ってくれたことに感動し、皆が一斉に拍手をして感謝を述べました。同じ被災者である奥州の子どもたちに励まされ温かい交流ができました。



### 地球っ子広場・ESPACE KIDS (フランス)

2017年12月には、2歳半から5歳半の35名の子どもたちが参加して、茶道と和菓子づくりを行いました。黒い餡子の練り切りに金箔を乗せたものと、白あんとお茶で色付けした餡の練り切りをつくりました。粘土細工のようで簡単なので、小さな子どもたちも楽しみました。

2016年11月から始めた地球っ子広場ですが、この間、ずっと子どもたちには「あなたたちは素晴らしい」と伝えながら接してきました。

お茶の道具も満足に揃う環境ではないのですが、ある時、一人の女の子に、「お茶を通して何を学んだの?」と聞いてみたところ、「平和」と言ってくれたことに、本当に感動しました。



### 地球っ子広場・ソウェト (ケニア)

2017年8月、ケニアの首都、ナイロビ市の「ソウェト」と呼ばれるスラム街で、アフリカ大陸で初となる地球っ子広場を開設しました。

日々の生活の維持もままならない人々が数多く暮らす、スラム街の約150名の子どもたちを対象に、地元の市民活動団体ソウェト・ユース・イニシアチブのボランティアの皆さんのご協力により、学校が休みとなる週末を中心に不定期で実施されています。

スラム街の子どもたちは、とても元気が良く、積極的で、たくさんのことを学ぼうという意欲にあふれ、日本の地球っ子広場で生まれた、各国の国旗の色やシンボルを参考にしながらつくるピースフラッグのアクティビティをおこなったり、日本文化を学ぶ目的でおりがみにも挑戦しました。



### 震災復興プロジェクト「地球っ子キャラバン」

東日本大震災後の平成23年5月にスタートした震災復興プロジェクト「地球っ子キャラバン」を実施しました。

地球っ子広場のプログラムを通じて、福島県と宮城県の被災地の方々、特に子どもたちが一日も早く大震災から立ち直り、地域の復旧・復興、新しいまちづくりや自立に向けて、明るい希望や力強いエネルギーを見出していけるよう、支援活動を展開しました

日付	会場	対象者	内容	主催教室
9月16日（土）	「名取市文化会館」 （宮城県名取市）	被災地域の児童	●絵本の読み聞かせ 「いのちのまつり」 ●味覚の実験	仙台教室
11月20日（月）	学童保育 「オレンジハウス」 （福島県福島市）	学童保育の児童	●クリスマスのお ナメントづくり ●絵本の読み聞かせ 「いのちのまつり」	仙台教室